

事務事業名		原発事故放射線影響対策事業		<input type="checkbox"/> 実施計画掲載事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業	
政策体系	政策名	0 6 自然豊かな環境の保全と創造		事業期間	
	施策名	2 6 生活環境の保全			
	基本事業名	0 2 環境に配慮した生活の推進		単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 平成23 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (計画期間) 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 04 01 03 20	
所属	部課名	市民生活部市民環境課		事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)	
	課長名	鈴木 康代			
	係名	環境衛生係	電話 0192-27-3111		
	担当者	米田 大祐	内線 124		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
東京電力HLD(株)福島第一原子力発電所の事故に由来する放射線の影響に係る対策を行う。 ・市内7ヶ所の定点測定を継続して実施し、その結果を市広報、市ホームページ等で周知する。 ・市民等へ空間放射線量を測定する簡易放射線測定器の貸し出しを行うとともに、市民から提供された測定結果によって市内における放射線量の状況を把握する。 ・不特定多数の市民等が利用する公共施設等において、局所的に高い放射線量が測定された場合は、除染等を実施する。 ・市が支出した放射線影響対策に係る経費等について、県及び県内市町村と連携して、東京電力HLD(株)へ損害賠償請求を行う。				総投入量(千円) 事業内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)									
① 手段(主な活動)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 定点測定の実施回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>イ 簡易放射線測定器の無料測定貸出し</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>ウ 関係施設の土壌・放流水等の検査回数</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table>		名称	単位	ア 定点測定の実施回数	回	イ 簡易放射線測定器の無料測定貸出し	回	ウ 関係施設の土壌・放流水等の検査回数	回
名称	単位										
ア 定点測定の実施回数	回										
イ 簡易放射線測定器の無料測定貸出し	回										
ウ 関係施設の土壌・放流水等の検査回数	回										
前年度実績(前年度に行った主な活動) ・定点測定の実施、その結果の周知 ・簡易放射線測定器の無料測定貸出し ・自治体損害に係る東京電力(株)への損害賠償請求を行う。第3次請求分(平成27年度～29年度分)についてADRセンターの和解案により和解を行った。											
今年度計画(今年度に計画している主な活動) ・定点測定の実施、その結果の周知 ・簡易放射線測定器の無料測定貸出し ・自治体損害に係る東京電力(株)への損害賠償請求を行う											
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)									
市内における空間放射線量 市内における土壌・放流水等の放射性物質濃度		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カ 定点測定の実施箇所数</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>キ 土壌・放流水等の検査箇所数</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		名称	単位	カ 定点測定の実施箇所数	箇所	キ 土壌・放流水等の検査箇所数	箇所	ク	
名称	単位										
カ 定点測定の実施箇所数	箇所										
キ 土壌・放流水等の検査箇所数	箇所										
ク											
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)									
空間放射線量を把握し、除染の目安を超えた場合には除染作業を行う。 市内における土壌・放流水等の放射性物質濃度を把握し、基準値を超えた場合には立入禁止等の措置を講じる。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サ 空間放射線量が除染の目安を超えた箇所数</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>シ 放射線に関する情報の市広報への掲載回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		名称	単位	サ 空間放射線量が除染の目安を超えた箇所数	箇所	シ 放射線に関する情報の市広報への掲載回数	回	ス	
名称	単位										
サ 空間放射線量が除染の目安を超えた箇所数	箇所										
シ 放射線に関する情報の市広報への掲載回数	回										
ス											
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)											
放射線量を測定することで基準値を超えた場合の措置が講じられ、環境に配慮した生活の推進が図られる。											

(2) 総事業費・指標等の推移								
		年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(目標)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	100	0	0	0	0
		事業費計(A)	千円	100	0	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	0	0	0
		延べ業務時間	時間	100	100	0	0	0
		人件費計(B)	千円	400	400	0	0	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	500	400	0	0	0
⑤活動指標	ア	回	2	1	1	1	1	
	イ	回	0	0	0	0	0	
	ウ	回	1	0	0	0	0	
⑥対象指標	カ	箇所	7	7	7	7	7	
	キ	箇所	2	0	0	0	0	
	ク							
⑦成果指標	サ	箇所	0	0	0	0	0	
	シ	回	2	1	1	1	1	
	ス							

事務事業ID	1509	事務事業名	原発事故放射線影響対策事業
--------	------	-------	---------------

- (3) 事務事業の環境変化・住民意見等**
- ① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故により、大量の放射性物質が広く各地に拡散したことから、本市への放射線の影響を把握するために、空間放射線量の定点測定を平成23年7月27日から市内4箇所、同年11月30日からは5ヶ所を追加して、計9ヶ所で測定を実施。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
 ・各年度毎に放射線影響対策事業に係る費用等を東電HLD株に対し請求しているが、直接賠償にはほとんど応じなくなっており、紛争解決機関である原子力損害賠償紛争解決センター(原発ADRセンター)に岩手県及び他市町村等と連携し、賠償請求を実施している。
 ・令和2年度から町内に測定箇所が2ヶ所ある場合は町内に1ヶ所とし、計7ヶ所で測定を実施している。
 ・令和3年度から測定回数を年2回から年1回とした。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 原発事故直後は「転入してくる予定であるが、測定数値は生活するうえで大丈夫なのか?」「(自家栽培している)野菜を食べても問題ないか?」「山菜を採って食べても大丈夫か?」といった問い合わせが幾つか寄せられていたが、ここ数年は放射線測定器の貸出の実績もほとんど無く、市民の原発事故等への関心も以前から比較するとだいぶ薄れてきた印象がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は本市の政策体系に結びつかずか?意図することが結果に結びついているか? 第2次大船渡市環境基本計画に記載しており、安全で快適な生活環境の確保に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を本市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か? 本来、当事者である東京電力HLD(株)または国が取り組むべきものであるが、本市への影響等を把握し、的確な対策を速やかに講じることにより、市民の安全・安心の確保及び風評被害の防止を図る必要があることから、妥当である。なお、当該事業に要した費用については、その全額を東京電力HLD(株)に対して損害賠償請求を行っている。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか?意図を限定・拡充すべきか? この事業は、放射線量及び放射性物質濃度を測定し、基準を超えた場合は除染作業等の措置を講じ市民の安心安全を確保することを目的としており、対象・意図は妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか? ・市内の空間放射線量は震災以降除染の基準値を下回っており、自然由来の放射線量程度となっていることから、定期的な測定及び市民への公表以上の向上余地がない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input checked="" type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? 市による空間放射線量の測定を廃止・休止した場合でも、県において測定を継続していることから、データの提供を受け公表することが考えられる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 事業費は、放射性物質濃度の検査委託費用などであり、事業遂行上不可欠なもので削減することはできない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど) 外部委託による定点測定を平成28年度までは月1回として実施していたが、放射線量が安定して低い値であることから、平成29年度より測定回数を年2回、令和3年度より年1回に変更し、職員が測定を行うこととした。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?受益者負担が公平・公正になっているか? 市内全体の放射線影響を把握し、市民の安全・安心を確保することが目的であり、また、市ホームページ等を通じて情報を発信することにより、風評被害を防ぐことにもつながることから、全市民が受益者となる。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		市内で定点測定を行っている箇所の空間放射線量は、震災直後から除染の目安となる基準値を下回っている。また、市内の空間放射線量は県においても計測していることから、事業の終了を検討する。	(2) 改革・改善による期待成果 左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。(終了・廃止・休止の場合は記入不要)																										
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	<input checked="" type="checkbox"/>																												
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等		震災以降、測定事業等について継続実施してきたが、放射線量は人体に影響のない数値で推移しており、その結果を発信することによって、市民に安全・安心を提供することができた。今後の市内の放射線量については、県の測定値を市ホームページで公表することが考えられる。																											
		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">低下</th> <th>維持</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下	維持		×	×	低下			
		コスト																											
		削減	維持	増加																									
成果	向上																												
	維持	●		×																									
低下	維持		×	×																									
	低下																												

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	<input checked="" type="checkbox"/> 放射線の測定に係る費用について賠償請求しているが、全額は賠償されていない状況にある。放射線量は人体に影響のない数値で推移していることから、測定の必要性について検討していく。なお、住民の放射線被曝の不安を緩和するため、市内の放射線量の状況について県の測定値によりお知らせすることを検討する。